http://hokkaido-poland.com/pole.html

POLE

北海道ポーランド文化協会誌「ポーレ」
第34号　1996.7.12

発行
北海道ポーランド文化協会
〒060 札幌市南2条西2丁目
河合楽器北海道支社
電話　011-231-8661
FAX　011-221-4936

暮らしやすくなったポーランド

熊倉ハリーナさんのレポート

私がワルシャワのオケンチェ空港に着いたのは、五月二日の昼でした。大変暑い日で、迎えに来てくれた従姉妹は、もう夏のワンピースを着ていました。私が札幌を出発する時、まだ咲いていなかった桜やライラックの花が満開でした。

ポーランドでは、五月一日（水）のメーデーと、五月三日（金）の憲法記念日は祝日です。民主化以来、五月二日のなか日も国民の休日となりました。土・日曜日と続いて、日本のゴールデンウイークなら、どこも混雑しているのに、あまり静かなので、ちょっとびっくりしました。

従姉妹の家まで、タクシーで行くことにしました。空港ビルの前には、メルセデス、ボルボといった高級車のタクシーがいっぱい並んでいました。しかし、彼女は、「これらはとても高い運賃なので、違うタクシーに乗りましょう」と言いました。それから、50メートル位歩いて、ポーランド製の車のタクシーに乗りました。十分程乗って、40ズローテ払いました。（1ドル＝2・72ズローテ）。この値段も決して安いものではありません。私はびっくりしました。でも高級車のタクシーではこれの2倍はとられます。この高いタクシーは、高級ホテルの前、空港、駅などの所にとまっている

第二十六回例会のお知らせ

談話会「ポーランド―九六年五月」

講師　花摘　秦克氏
（北海道新聞編集委員）

最近のポーランド事情について、最新の見聞にもとづいたお話のあと、くつろいだ雰囲気で質問や議論をしていただきます。

【日時】七月二二日（月）六時三〇分から
【場所】「かでる2・7」会議室二一〇
【入場】無料

のです。これには、ポーランド人は「マフィアのタクシー」と呼んで乗りません。「マフィア」と呼んでいますが、タクシー業の許可は得ているのです。これらは、外国人やワルシャワに住んでいない人が知らずに利用するのです。ポーランド滞在中、何度かタクシーに乗りましたが、普通に使うタクシーは、日本のように車の窓のところに値段がはってあります（1キロメートル＝1ズローテ）。

買い物がスムーズに

もう一つびっくりしたことがありました。買い物が大変スムーズにできる様になったことです。帰国前日に、主人といろいろおみやげなどを買うためにワルシャワの中心に出ました。見て歩いている時、紳士物の洋装店を見つけて入りました。夏の背広が沢山そろっていました。すべてイタリア製でした。主人は、スーツとズボンを買うことにしました。試着して、ズボンが長かったので丈を短くできるかどうか、店員に聞きました。そうすると、店員は、「一時間で出来ます」と答えました。昔はとてもこんなことは考えられませんでした。主人は、十八年ぶりにポーランドに行きました。昔のように一日でほしいものが手に入ると思わなかったのが、あまり豊富に品物があったので、つい、いろいろと買い物をしたようです。そして、その買い物は、すべてクレジット・カードで済ませました。

買い物の途中、レストランで昼食をとりました。注文すると、すぐ料理が出て来て、味も良くなったみたいです。そして、何よりサービスが良くなったことに気がつきました。

インフレが問題

民主化になった頃は、店の人は、そんなにサービスしなくても売れました。しかし、この頃は、いろいろな物が沢山あるので、人々はあわてて買わなくなりました。そのため、店の人は、サービスを良くして購買意欲をそそるように努めています。

私は、昨年と今年、ポーランドに行きましたが、いつも短い滞在なので、インフレのつらさはあまり気がつきませんでした。

しかし、ポーランドの家族の話によると、インフレのために一カ月の家計の計画が立てられないと言います。それは、毎日の様に日用品の値段が変るからです。一九八九年の後半は200％にもなりました。それが、一九九〇年後半には250％になり、今年五月頃からは、9年間で初めて、20％以下になりました。だんだんと、人々がくらし易くなってきています。（談）

秋に十周年記念コンサート
「コルチャック先生」のビデオ鑑賞会も

北海道ポーランド文化協会は、今年の十月から十周年目に入ります。これを記念して、十一月八日（金曜日）に「かでる2・7」で記念コンサートを開くことが、七月一日に開かれた運営委員会で決まりました。

演奏会は、十周年をお祝いするのにふさわしい、肩のこらないフェスティバル的な内容とすることにします。また、多くの出演者に演奏していただいて、出来るだけ沢山の人に楽しんでもらう方向で企画することにしました。現在、薄井豊美さんを中心に、次のような計画が進行中です。

- ・ポーランド語による詩の朗読
- ・ピアニスト7名によるショパン他ポーランド作曲家の作品の演奏（昔から今日にいたるまでのポーランドの作曲家を紹介）
- ・ピアノの連弾と2台のピアノの演奏
- ・入場料＝2000円

映画の紹介に力点

この運営委員会では、ポーランド映画の紹介に再び取り組むことも決まりました。まず、霜田千代磨さんが中心になって、次の予定でビデオ鑑賞会を開催します。

〈日時〉九月二八日（土）一時三〇分より

〈場所〉「かでる2・7」視聴覚室（入場無料）

〈作品〉「コルチャック先生」

〈解説〉本間富雄

また、シアターキノが今秋予定しているキシエロフスキの「デカローグ」全十作の上映を積極的に応援することにしました。この計画は、運営委員の本間富雄さんが中心になって進めることになりました。

来年ポーランドツアー

一昨年秋に行って好評だったポーランドツアーを、来年の夏か秋に再び行う方向で検討することが同じ運営委員会で決まりました。事務局長の小笠原正明さん、運営委員の佐々木保子さん、小林暁子さんが企画を担当します。

ポーランド情報

■五月一日から、国会で禁煙しなければならない場所が決められた。職場・学校・病院などの他、公共の人の集まる場所。決められたスペースでタバコをのむのは良い。守らない人は、罰金をとられる。最高額は5000ズローテ。

（ポリティカ五月一日号）

■民間人の平均給料は、853ズローテ27グローシュ（一、二、三月の平均）。高額所得者は、炭鉱労働者で、平均1585ズローテ。

（ポリティカ五月一日号）

■二月に比べると三月に入って、失業者の数が8千人減少した。しかし、まだ272万6千人の失業者がいる。その内32％以上は、18才～24才の若者です。

（ポリティカ四月二〇日）

読者の欄

ポプラの綿毛

柏木由美子

今年もポプラの綿毛が舞う季節になりました。この時期になると、ポーランドでも綿毛が雪のように舞っていた光景を思い出します。私は一九九三年二月から八月までの半年間、日本語教育と日本語教育事情の調査のためにポーランドに滞在しました。帰国後札幌にすむようになり（出身は香川県）感じるのは、北海道はポーランドのようなところだということです。長い冬、美しい春、短い夏、黄金の秋といった季節の移り変り等、自然環境に関しては、北海道と四国よりも北海道とポーランドの方が近いような気がします。

帰国後ポーランド文化協会に入会し、ポーランド語講習会にも何期か参加させていただきましたが、現在はすべて子育て休業中です。子どもはこの八月で一歳になる女の子で、咲奈（さきな）といいます。夫と知り合ったのがマレーシアだったのでマレー人の女の子の名前を付けました。元々はアラビア語で、平和とか静かとか言う意味があり、パキスタンやシリア等、マレーシア以外のイスラム教国でもよくある名前なのだそうです。いつか咲奈が大きくなってそれらの国々のサキナたちに会いに行くようになったらおもしろいなぁと思いながら、子どもの世話であっという間に日が暮れる毎日を送っています。

窓口のつぶやき

戸田　長祐

私ども凡人は、ヨーロッパとなると頭に浮かぶ国は、フランス、イタリア、ドイツぐらいがせきのやまで、ポーランドとなるとさらに遠い国に感じる。そしてポーランド、イコール、ショパンといったところでしょうか。

世の中にはやはり様々な方がいらして、ポーランドに興味をもっている方が意外にも多いことが、

私ども窓口（河合楽器北海道支社のこと＝編集者注）にくる問い合わせなどで気がつきました。何の理解も示さず、ポーランド文化協会の事務局の「窓口」ということで、単純に郵便物の転送を行っているにすぎません。

「ポーランド語を習いたいのだけれども・・・・」、「ポーランドに留学したいのですが・・・・」というような電話も多々ある。

「・・・詳細については良く分かりませんので、北大の小笠原先生に改めてお尋ね下さい」と答えると、「無責任だ」と怒る中年女性らしき人もいる。

温和な口調の男性が、「ポーランドを旅した時、植物の種を買ってきたのだけれど植え方がわからないので、誰か教えてくれる人がいないだろうか？」とさわやかな話でした。その後、果たして実でもなったかな、と思い出しているうちに大雪の冬を迎えてしまった。

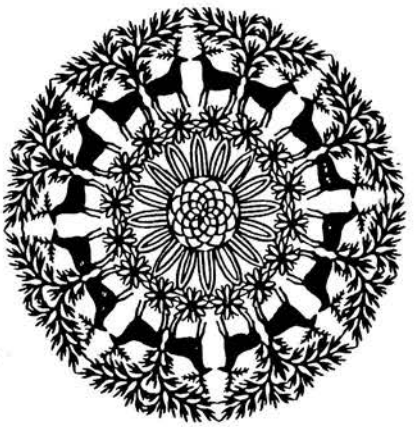
嬉しい出来事

吉田　邦子

いつも時間に追われ、目先の事ばかり考えて暮らしている私は、このところ時間の流れが随分速くなったように感じていました。十年一昔いう感覚がどんどん薄れてしまい、新しいものが次々に生まれて、物質的には「昔」の尺度が五年、三年と縮んでしまい、感覚的には、一年前の出来事はつい数週間前の、十年前のそれは数か月前のものであるかのようです。そんな中で最近、テンポの速い日常を離れ、しばし思い出の世界を旅する機会がありました。

ちょうど十年前、ドイツに滞在していた私は、素人ながら教会などでコンサートを開いている歌の上手な婦人と知り合いました。その後、彼女のレパートリーの大部分が、当時八十四才になる老婦人作曲家のものであることを知って驚き、この作曲家にとても興味を持ったのです。主にドイツの詩人の詩に、民謡・唱歌風のメロディーをつけて、沢山の美しい曲を生み出していました。作品は地方の合唱団や学校に提供したり、教科書に載った曲もあります。彼女の地道な活動に対する評価は非常に高かったようです。私が作品に関心を持ったことを彼女も喜んでくれました。その後、私が札幌に戻ってからも手紙や楽譜がどっさりと送られてきました。数年前には初の曲集を出版し、彼女は大変満足していました。そしてつい最近、私の元に六冊目の曲集が送られて来たのです。十年間一度も会ったことがなく、手紙もご無沙汰していた私でしたが、曲集を手にした時、彼女の素晴しさを改めて認識しました。さらに曲集の中に嬉しい発見をしたのです。日本の詩をもとにした「秋」という曲があり、タイトルの下に札幌の私に捧げると書かれてあったのです。遠くで私を思い、日本の詩に重ねて美しい曲を贈ってくれた老婦人。

私を毎日のあわただしい暮らしから、ふと静かな時空の中に引き込んでくれた、思いがけない嬉しい出来事でした。



投稿を歓迎します

「ポーレ」は読者からの投稿を歓迎します。掲載ご希望の方は400字程度にまとめて事務局まで郵送して下さい。ファックス原稿も受け付けます。

「ポーレ」編集委員会
小笠原正明・斎田道子
佐々木保子・安田誠子
〔連絡先〕621-1783（斎田）

POLE 第 34 号（1996.7.12）目次

熊倉ハリーナ「暮らしやすくなったポーランド」、〈第 26[27]回例会〉談話会「ポーランド～96 年 5 月」（講師：花摘秦克、1996.7.22）のお知らせ…… 1
創立 10 周年記念コンサート（1996.11.8）と映画「コルチャック先生」のビデオ鑑賞会（1996.9.28）のお知らせ 2
来年のポーランドツアーを企画、ポーランド情報（「ポリティカ」誌より）、〈読者の欄〉柏木由美子「ポプラの綿毛」、戸田長祐「窓日のつぶやき」、吉田邦子「嬉しい出来事」…… 3